

日本河童伝説発祥の地

潮見神社河童伝説

1. 河童の正体	—————	1
2. 各地の河童伝説	—————	4
3. 潮見神社河童伝説	—————	6
4. 菊池市渋江天地元水神社	—————	8
5. 潮見城落城後の橋渋江氏	—————	9
6. 河童伝説の起源	—————	10

平成17年 9月 3日

武雄歴史研究会
市丸昭太郎

1. 河童の正体

皆さん、河童はどんな動物か、知らない人はいないでしょう、想像はつくと思います。

伊万里市山代町に河童のミイラが在るのです。見た事がある人が何人居られますか。

ガラスケースの中に格納されて居て、全長70センチ程度、前足には指5本、後ろ足には3本の指があり、それぞれに水掻きがある。(河童は前後共に4本の指が一般の伝説)

頭蓋骨は皿のようにクボミ、背中は一見甲羅のように16個の背骨が突出しています。

どう見てもこれは、河童としか言いようがない。河童のミイラです。

これお保管している田尻酒造の田尻氏は、今で17代目だそうです。何代も言い伝えが在って、家には何か珍しい物がある、と言われていたそうです。昭和28年の台風で、傷んだ母屋の屋根の葺き替え工事中に、「梁の上にこんなものが…」と、大工の棟梁が持ってきたそうです。箱には「河伯」と書かれていた。

中国では、カッパを河伯と書いていたそうです。日本では、明治になって河童とかくようになっただけらしい。

戦国時代田尻家は筑後国田尻村の豪族で、当時筑後の太守とよばれるほどの勢力を持ち、竜造寺や大友氏とも幾度かの戦いを繰り返しながら、鍋島直茂公によって、現在地に所領1千6百50町歩を与えられて、定住したそうです。

筑後川は河童が多く存在していたため、ミイラを家宝として一緒に持ってきたのであろう。酒造をされている、酒作りの良い水と河童、何か関係がありそうですね。

日田市では、1630年代に捕らえた河童の立派写生が今でも残っているそうです。

河童の手のミイラが各地に残っています。水掻きの付いた細長い手などや小さな手等です。非常に多く、九州だけでも約30個程度在るようです。

河童は辞典によれば、妖怪とかかれています。

佐賀地方は、川かわうそとも言われて、どちらも人を化かすと伝えられています。

河童の名前

東北から北海道地方は、「ミズチ」と呼んでいます。ミズは水、チは精霊の意味があり、水の神様の事とおもわれます。我が国でカッパがはじめて文献に出たのは、日本書紀に「大蚊みずち」と記載されている。

「川かわうそ」が河童であると言うのは、九州地方に結構多いようです。

この川かわうそと言う動物は、小さくイタチより少し大きい程度です。天然記念物に指定されていて、絶滅しかけています。(徳島県地方に生存が確認されている) 黒色で水泳ぎが上手なところから河童と呼ばれているのだろうか。(但し、外国の川かわうそは大きい)

川かわうそは、人を「化かす」とも言われています。

「川童」、「川太郎」、「ガタロー」、「ガラッパ」、「河伯」、「水虎」、「川小僧」……等の沢山の名前がついています。これらは、川や水に関する名前です。

「ヒョウスへ」、「ヒョウスンボ」の名前は、宮崎地方にあり、ヒョウ、ヒョウ鳴く声を聞くから名付けたと言う。しかし、私は潮見神社の河童である兵主部ひょうすべから来ていると信じます。

民族学者の柳田国男氏は、ヒョウスは河童ではなく、化け物退治を持って職とした神の名であらうと言われ、水難防止の神とした水神信仰のことと思われる。

柳田国男氏は「河童は水の神の零落した最低の姿である」と言われている。

河童の姿

頭はオカッパスタイルで頭の上にお皿があり水をためていて、この皿の水がなくなると、河童の神通力がなくなると言われている。伝説では、人は相撲を取る時、如何にしてこの水を無くすかを考えていた様子が伺えます。

肌はヌルヌルしていて

青黒色 …… 九州地方

真黒 …… 愛知県、福井県、茨城県

赤色 …… 奥羽地方

透明で人間には見えない。 …… 筑豊地方

褐色で全身に毛がある。 …… 筑後地方

手は左右繋がっている。藁で出来ているから弱い、手がすぐに抜ける等の話が多い。

口は平べったく、鳥のようで先が鋭角に尖っている。

行 動

相撲好きである。馬や人と相撲し、勝てば川に引きずり込んで尻子から手お入れ尻子玉(肝)を取ると言われている。九州地方に多くあり、東北地方には少なく西に行くほど多い。

集団で棲むこともあり、僅かな水溜りでも棲んでいる。水があるトイレの中にもいる。山奥であろうが、河口であれ、みずがあれば何処でもいる。

トイレの中からお姫さまのお尻をさわる話やら、馬を川に引きずり込むなどの悪戯をしていたようだ。

薬

手を返してくれたお礼に薬の調合を教えた「骨継ぎ薬」や河童本人が捕られて、助命のおれいに秘法を教えた話がある。

河童の手を切り落とす話が多いが、7日の内なら手は元に戻る。この話から骨接ぎ等の薬の伝説が生まれたのであろうか。

東北で「疝の薬」(子供のひきつけ薬)は今でも北海道まで販売していると言う。

「キズの妙薬」、「癩の薬」、「金創打撲の薬」等全国に多くあるようです。

河童の好き、嫌い

好きなものは、胡瓜、茄子など夏の水神祭にお供え出来る物である。

嫌いなものは、木の香りの強いもので瓢箪やシキミや人間のツバ。

河童についての記載された本

柳田国男 …… 「遠野物語」、「河童駒引」「山島民譚集」

折口信夫 …… 「全集の中に各所にでている」

泉鏡花 …… 「河童物語」

芥川竜之介 ……「河童・或阿呆の一生」

火野葦平 ……「河童曼荼羅」

「和漢三才図会」

石田英一郎 ……「新版河童駒引考」

小馬 徹 ……「相撲考」

河童ブーム

一回目 1920年代 芥川龍之介 小説「河童」等には

(大正10年) ファシズムの台頭の中、人間社会を痛烈に風刺した

二回目 1950年代 火野葦平 奇想天外な自由奔放な小説をつくった。

(昭和25年) 昭和天皇ご出席のうえ、吉川英治、徳川無声、佐藤八郎、獅子文六等と放談会を昭和33年4月1日おこなった。

三回目 1990年代 全国で河童サミットがブームとなった。

(平成2年) 主に水環境を問題としている。開催地の首長が出席し、河童の持つ魅力に接し「町おこし」をして、水の環境問題に取り組んだ。

四回目 2030年代 ー？

河童の持つ魅力

悪戯好きであるが、人間に憎まれないのみか、人間に愛され可愛がられている動物はいない。

これは人一倍英知があり、辛抱強く、邪気がちっともなく人の恩を忘れず素直なことである。

中でも、奢らず高ぶらず、逆に一本釘が抜けたようなトボケと呑気さがそうさせている。

このあたりが、人気の最大の理由であろうか。

河童のルーツも伝説では沢山あって興味が尽きない。

中国から逃れて来た説

平家の落人が源氏に追われて河童になった

神代の時代、天孫降臨に発する説

菅原道真公に発する説

水に神や山の神の説等沢山ある

春日大明神の説

参考資料

折口信夫 全集

九州河童紀行（九州河童の会編）

国史大辞典

小馬徹「相撲考」

「和漢三才図会」

2. 各地の河童伝説

(1) 河童の結婚式 (佐賀市)

「もう二度と水を汚してはいけない」そんな想いを託して、河童の家族が松原川に帰ってきた。このような出だしで、佐賀市長 西村正俊氏の手記があります。その手記を以下に纏めた。

その昔、松原川には兵主部と名乗る悪いカワウソいたそうです。兵主部の暴虐ぶりには目に余るものがあり、松原川付近は子供の水難事故が大変多かった。

そこで城主鍋島日峰公が川上の淀姫神社に祈願してこのカワウソを捕まえ処刑しようとする、前非をくいたカワウソ曰く「自分を彫刻にしてくれたら、罪の償いに子供を水難から守ります」と訴えたそうです。松原神社には、この時彫られたというカワウソの像がいまでも宝物として安置されています。

「河童に託した街づくりの夢」を、まず口火を切って、市長は河童へ年賀状を出した。「河童の皆さん、きれいになった松原川に一族皆なで帰ってきて下さい、佐賀の子供たちを水から守ってくださる兵主部さんに、佐賀の人を代表して心からお礼を申し上げます。」松原川をドブ川と化した事を詫び、きれいになった川にもう一度家族を呼んで、私たち人間と同じ水や緑を愛する仲間として、今後共お付き合い下さい。会えるのを楽しみにしています。

ドラマが始まります。河童の家族会議。河童からの返事。河童の紹介等。後ドラマが続きます。このドラマの進行中、鹿児島県の菱刈町の町長が見学に来られ、河童の「みどり」ちゃんに一目惚れ。是非、お嫁に欲しいと申し込まれた。みどりちゃんは佐賀の人気者なので、いとこの「みずえ」ちゃんを嫁入りさせることになった。前代未聞の河童のお嫁入りになった。

平成4年2月26日 結納式

平成4年4月11日 結婚式

両市長共、河川環境整備に取り組んだ施政がよく伺われます。

これら「河童の嫁入り」はNHKや民放で全国に流された。

(2) 九千坊 (熊本県八代)

八代市を流れる球磨川の分流で、徳の淵の堤防上に河童渡来の碑がある。

河童渡来は、今から1500~1600年前の中国「三国志」の頃、戦乱に明け暮れて、親は殺されたか連れ去られたかして、残った子供達を九千坊というラマ僧に連れられて集団疎開した児童であると言われている。

(3) ドイツの河童

ドイツ・チェコの河童はダンス好きだ。河童は燕尾服を着ていて、裾がいつも濡れている。これが乾くと神通力がなくなるらしい。

女性に近付いては、ダンスに誘い、機を見て水中に引きずり込むと言う。

日本では、水難防護。ドイツでは、女を誘惑者から護ることであるようだ。

又、日本では、尻子玉を抜くと言われ、ドイツでは、魂を抜くと言われている。

(4) 長崎渋江水神社 (中島川水神社)

その神主は伊予水軍の祖に繋がる家柄で、敏達天皇に始まり2代栗隈王といわれ、河童を統帥していたという。今でも12代渋江田鶴代さんは健在である。

昔、中島川は水が綺麗で湧き水が多く「倉田水樋」は水道の源泉となって有名である。

そのため河童は好むんで住んだものと見える。そのうち人家が増え船が浮かび、段々汚くなった。子供は石を投げ込み、河童の住む家が荒らされて、河童は怒り、渋江神社に「今まで人間と仲良くしてきたが、これから仕返しをするから覚えていろ」といった。神主は宥めたが聞かない。河童は子供に悪戯はするし、洪水は起こすなどあって神主は河童のご機嫌とりに毎年5月に甘酒を献上する。

ある年の祭りに、渋江神主は竹の子のご馳走をした。河童は大喜びして初めての竹の子に齧りついたが「こりゃなんじゃ、歯が立たん」とぶつぶつ不平をいいつつ神主を見ると、「これは旨い」と盃片手に食べている。「さすが親分は偉いもんだ」と感心した。実は河童の悪戯を戒めるため竹の根っこの硬い部分を食べさせたということである。

これ以後は、河童はおとなしくなった。

中島川の水神社の初代渋江公師さんは、河童の字が読めるといわれた。河童の印とおいうのがあるが、サツマイモを切って出来たような木片で、何の字からない。これは3百年もの古い水神様の心(宝)として保存してある。

水神様のお仕えが河童であり、お仕え河童の印ということから、神社の護符にしたのである。

平成2年、長崎市銭座小学校の校舎外壁に、清水昆の作品「なかよしカッパの、ふうちゃん、たあちゃん」の漫画レリーフが、美しく楽しく描かれている。

平成4年、長崎市中島川公園に鯨にまたがる河童の銅像が完成。

「渋江郁子 (長崎市歴史・民話) 抜粋」

(5) 島原の渋江水神社

板倉氏は島原城を築造しました。その時、島原は火山地帯で出水が多く基礎工事が捗りませんでした。板倉氏は渋江水神の話聞き、早速長崎の建水社の神官を招き、神殿を整え治水の祈願をしたら、その後出水が減り、城の築造が完成したそうです。

板倉氏は武家街の一角に渋江水神の祠造りました。島原市では、今でも渋江水神が祭られています。

(「吉野千代次 (タケサン通信) 抜粋」)

(6) 菅公の河童よけまじない

大宰府天満宮の末社の一つに「ひょうすへ」の宮がある。現在は無い。

河童の災いを除く呪い「ヒョウスベに約束せしを忘れるなよ 川立男氏も菅原」と、菅公の遺詠といわれる歌までが遺されている。「九州河童紀行 抜粋」

3. 潮見神社の河童伝説

奈良麿公に4男あり、その長男を嶋田麿と言う。称徳天皇の神護景雲2年(768)春日大明神を常陸国鹿島から大和国三笠山に勸進造営の時、嶋田麿は勅命を奉じて造営司となる。その折、部下の内匠頭、菅原氏が人形百体を造り、匠道の秘法をもって加持したところ、忽ちにしてその人形に、火をよび風寄って、童子の姿に化け、或時は水底に入り、或時は山に登って神力を発揮し精力を傾けて格別の働きをしたので、造営工事は思ったより早く完成成就した。時に11月であった。

その功により、称徳天皇の勅許があり^{しやく}筋に綸旨を添えて賜い、その1をとって水神と崇め、氏神として天地を祀る。之が今日まで伝わる橋系水神行事の始めである。

奈良三笠山内にある水神社がこれである。

水祖たる 泉の水を結いあげ

神にまかせて 身を頼むかな 嶋田麿

又、残る99体は川に流して^{へようすべ}兵主部として祀る。三笠山内の兵主部神宮がこれである。

この川に流した人形は動くこと元の如く、人馬六畜を侵して、甚だしく世の禍となる。このことが称徳天皇の叡聞に達したので、兵主部大輔嶋田麿は各地を廻って河中水辺にその趣を触れまわったので、その後、河童の禍はなくなったといわれる。これから彼の河童を兵主部と名付け、橋氏の眷属と称した。

兵主部に 約束せしを忘るるな

川たちおのこ 氏は菅原

何人も水辺で上の歌を口づさむと兵主部の害を免れるといわれ、或いは大工及びその諸道具も禍なしと言い伝えられている。

潮見神社参堂入口第一の鳥居の左手茶畑の中に「河童の^{せもんいし}誓文石」と言うのがある。当時潮見川の河童も沿岸の人達に常々禍を及ぼしていたので、嶋田麿はこの誓文石のところに彼等を集めて、懇々と戒め

「若しこの石に花が咲く時が来たら皆の行動を認めてやるが

それまでは決して悪い事はしてはいけない」

と言ってきかせたので河童達もこれを約束したと伝えられる。

以上は中嶋信夫著「橋町の歴史」抜粋

吉野先生の「橋町史跡めぐり」及び潮見神社由緒には以下のように記載されている。

大工の棟梁が99の人形を作って、大工の秘法でまじないをした。人形は子供になって、夏は川底にもぐって石をひきあげ、冬は山へ行って木を伐りだした。

工事が完成したので、棟梁は99の人形を削って、全部川に捨てた。これが河童になった。

茂手の石井樋から浮橋(潮見神社の南、今は上潮見橋とよぶ)までの川には、水難防除の誓文がかけてあった。

「河童よ、この石に花が咲く時が来れば、お前に人間をくれてやろう。

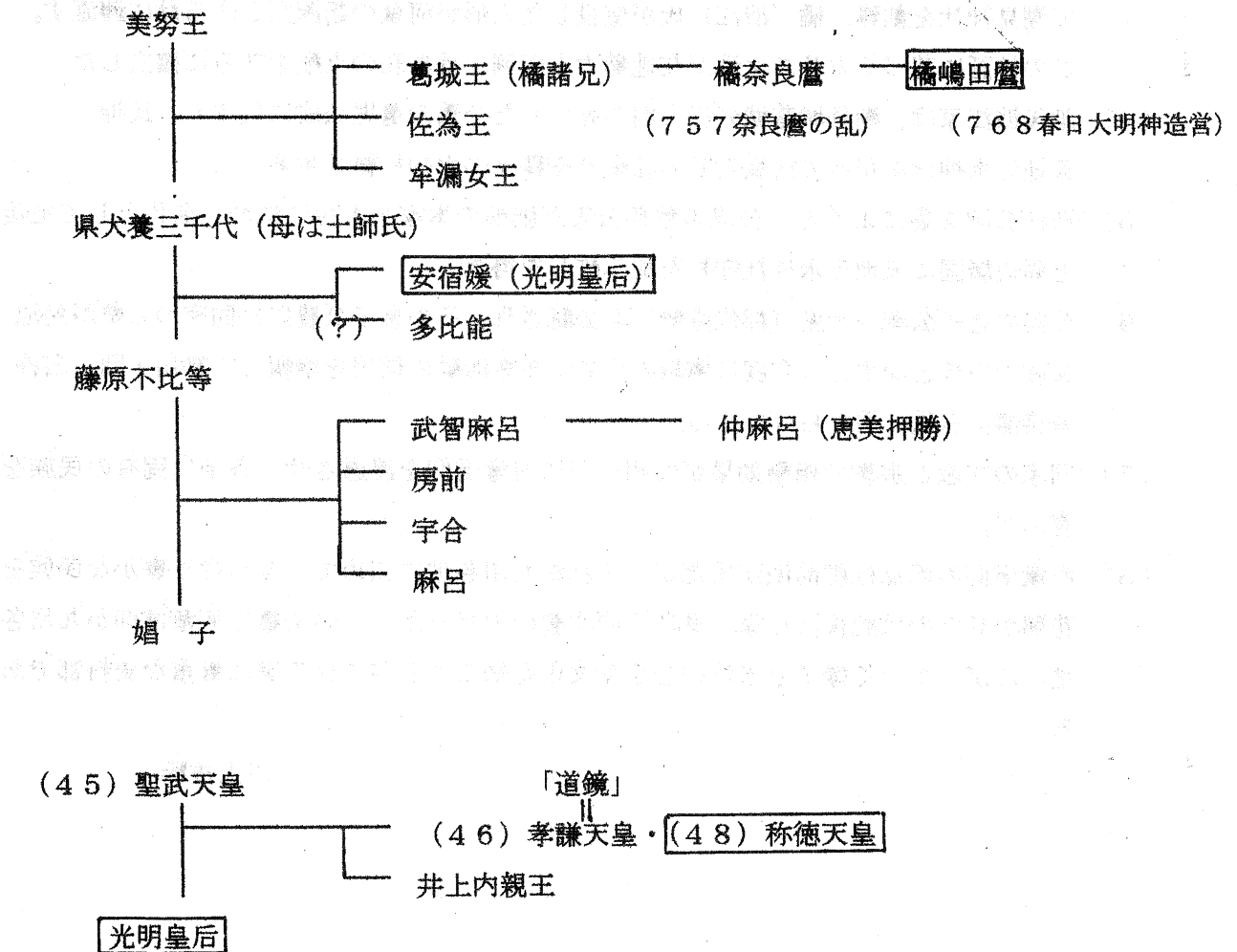
花が咲かない間は決して人間に害を及ぼしてはならない」

橋諸兄から15代の末孫橋公業が嘉禎3年(1237)長島庄に移ってきた時、河童も従ってきて、潮見川に棲みついた。ところが潮見川にきてからまた暴れるようになったので、誓文を取り交わしたのである。そして、石に花が咲くまでは河童はおとなしくしているのである。

潮見城の下の渋江水神(下宮に合祀)は河童を祀ったところであり、潮見神社宮司も毛利家には、水難防止の呪文として次の歌が残っている。

兵主部よ 約束せしは 忘るなよ
川立つおのし 跡はすがはら

この地方では、川に泳ぎに入るとき、この呪文を唱えると、溺れることはないといわれている。兵主部とは河童のこと、川立つおのしとは川で泳いでいる河童達よ、泳ぎが上手になるまで川で泳ぎなさい。そうすると、菅原氏のように神様にして祀ってあげる。と解釈できる。



野見宿禰に始まる土師氏のうち一つの氏族が781年に菅原氏を名乗る。

初代菅原古人 _____ 2代清公 _____ 3代是善 _____ 4代道真

4. 菊池市の天地元水神社

平成17年5月7日の熊本日日新聞に「河童信仰広げた肥後渋江家」という見出しで以下の記事がありました。

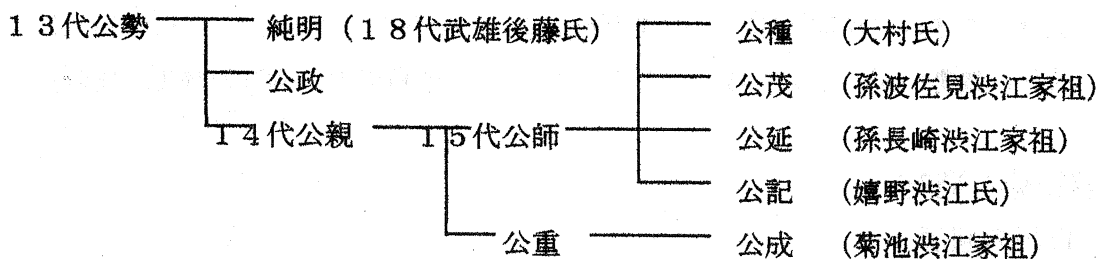
河童退治の神事などで知られる天地元水神社（菊池市）の宮司・渋江家に伝わる大量の古文書を調査している小馬徹・神奈川大大学院教授らがこのほど、文書の一部を刊行した。渋江家文書や河童信仰について、小馬教授に寄稿してもらった。

（要点だけ記載）

- (1) 年来の現地調査の成果、「渋江公昭家文書目録（一）」が日の目を見た。
- (2) 童信仰の淵源（起源、成り立つもと）を嘉禎2年（1236）に伊予宇和荘から肥前長島荘へ転補入部した橘氏まで遡れると論じた。
- (3) 橘氏は、先祖橘嶋田丸配下の内匠頭が奈良春日大社造営に駆使した後で捨てた人形が狼藉したという古い神話を下敷きに、乾元年間（1302～3年）、春日大社に準えて潮見神社を創建、橘（渋江）氏が使役した人形が河童の起源だとする話に鑄直す。この神話に基づくカリスマ性が在地勢力を圧倒、長島荘の支配を巧みに確立した。
- (4) 肥後渋江家は、潮見城落城の折に討ち死にした公重の遺児公成に始まり、氏神天地元水神社を祀って河童封じの札配りや種々の水神祈禱を生業とした。
- (5) 渋江公昭文書によると、公成の曾孫公実が肥前の本家を大村に訪ね、名代として肥後と周辺諸国に天地元水神社守札を配る許しを得た。
- (6) 公実の息子公春が士席（郡代直触）を公認され、その息子公豊以来同家の私塾が菊池文教の中核をなすと、今度は儒教の令名が布教活動の信用を増幅し、細川・岡・臼杵等諸藩にも重く用いられている。
- (7) 同家の文教と宗教の相乗効果が九州一円に河童信仰を浸透させ、各地に固有の民族を育んだ。
- (8) 河童信仰の起点は肥前渋江氏だが、それを九州各地に広めて、今も彩り豊かな民族を花開かせたのは肥後渋江家、殊にその文教の力だった。この文書は河童信仰が九州各地に広がっていく様子と当時の社会や文化を知ることができる実に貴重な史料郡である。

以上抜粋

5. 潮見城落城後の橋汲江氏



(1) 大村氏との仲 (橋家汲江由緒記)

13代公勢は大番役3ヵ年在京しての帰り、伊勢神宮に下向の途中、大津に宿泊した。大村純伊は島原の有馬氏と数度の戦いで破れて、遂に松浦の加々良島に忍び住む。

数年後、本領の帰参念願を発し、伊勢神宮に主従5人で詣でる時、逢坂の関で、銭が欠乏したため暫く留められた。丁度、通り合わせた公勢は援助した。永正元年(1, 504)帰ってから、汲江氏、平井氏、や旧家臣達の援助で本領を回復出来た。

(大村家譜)では

文明6年(1, 474)有馬氏に攻められ城を捨てる。

文明12年(1, 480)霊夢によって伊勢に参官し、杵島汲江、平井や旧臣縁故者に迎えられ本領回復とある。

年代が「橋家汲江由緒記」と違う。

(2) 13代公勢の死と日鼓城の落城

次男公政の乳母による毒殺で次男共死す。

長男を武雄後藤氏に養子にやるが、この長男純明は三男公親を攻めて、橋氏が滅ぶ。

(3) 14代公親の再挙兵

母方の波多氏を頼り、壱岐に潜むこと13年にして、天文11年(1, 542)28歳の時、波多氏の援助で挙兵し後藤氏を破る。

約3ヶ月後、後藤純明は挙兵して公親を破る。

公親は佐賀の竜造寺家を頼る。長男公師は肥後国山鹿談義所に連れて行かれ、僧に預けられた。

その後、山鹿赤星重行の教育を受ける。(菊池武房の弟)

(4) 潮見城再興 永禄2年(1, 559)

19代後藤貴明は有馬の大敵を防ぐ盾として、橋汲江氏を潮見山城に置く。

永禄3年9月21日有馬軍に攻められ潮見城陥落す。

(5) 永禄5年後藤貴明は藤津郡大草野境の初岳に要塞を築き、この城を月替わりとして守らせた。

(6) 天正5年(1, 577)竜造寺隆信、後藤貴明、松浦鎮信氏は大村純忠を征伐するが、

純忠は渋江氏に依頼し、大村氏と松浦氏と和睦を依頼する。
この事から貴明と不和になった。討ち取る計画を知った公師は大村に走った。
以後、大村氏の一族として天正15年まで波佐見の岳山城に居住した。
公師は波多親、松浦法印、大村純忠等を頼み、長島庄の帰参せんことを期すが
時代の趨勢いかんとも難く、千綿にて死す。「中島信夫（橋町の歴史）抜粋」

6. 河童伝説の発祥

(1) 伝説の起源

潮見神社の河童伝説は「嶋田麿神話」として出来ている。これは、「野見宿禰神話」を下敷きしたものである。

「野見宿禰神話」

相撲の神話

土偶で埴輪

「嶋田麿神話」

河童も相撲を取る

ワラで人形を99体

(河童となる)

「野見宿禰神話」

日本における相撲はノミノスクネとタギマノクエエハヤの取組みに始まると言うのが、従来広く流布されて来た見方であり、その根拠は、「日本書紀」に記載されている。

7月7日のこと、天皇のまわりの者が当麻村には勇壮な男がおり、自分に匹敵する者に会って生死を賭けて存分に力を競いたいものだと言っている、と奏上した。

それを聞いた天皇が、その天下一の力士であるタギマノクエエハヤに敵う者がいるかと尋ねると、臣下の一人が出雲の国にノミノスクネという勇士……

勝利したノミノスクネは天皇に仕えた。25年後、皇后が崩御された時、殉死者の代りに埴輪をその陵墓に立てるように進言し、その案が尊び迎えられた。ノミノスクネは巨大な陵墓を覆う膨大な数の埴輪を作り上げた。この語りには、土師氏の部民が埴丘を築き上げるという、当時ではほとんど超人的と思える行為であったと思われる。

(2) 伝説は何時出来たのか

3代公村は、文永9年(1272)領地を兄弟4人で分配した。又、舎弟人には牛島・中村・中橋の姓を称させ、自らも渋江と改めた。以後、橋姓渋江氏と称する。

公村の息子である4代目公遠は、正安2年(1300)予てから係争中であつた旧杵島荘の土地をついに両分し、その東川を橋家の所領と決め、完全に自領となした。

乾元年間(1302~1303)ないしはその直後に、潮見神社の下宮を中宮とし新しく下宮を創建した、と潮見神社の由緒記にある。

河童伝説はこの頃作られた可能性が高い。

(3) 何故このような伝説が必要であったか。

小馬徹先生は下記の様に推定されておられる。

初代公業が長島庄に入部した嘉禎3年(1237)からの約70年間は、橘氏はまず先住土豪達を実効的に従え、やがて蓮華王院杵島庄との領土争いに決着を成し遂げ、さらに同族内部の秩序を確立させるために要した、血の滲むような歳月であったと言えるだろう。

こうして、潮見の地で漸く物理的・世俗的に覇権を固めた橘洪江氏にとって、その次になし遂げるべきことは、この土地の風土を同家固有の世界観に巧みに包摂することであったはずだ。そうして初めて、彼等が名実共に人心を掌握できるからである。

これを具現するために、その理念に適う意匠をもった神社の造営とそこで執行される諸儀礼の形成、ならびにその儀礼に対応する神話の想像が要請されたものだとおもわれる。

長島庄は水利権を持つことが重要であったはずだ。

洪江氏が長島庄を首尾よく治めて行くには、水利権を独占することが、極めて重要であったと見なければならない。

以 上

二 安永十年三月

川太郎伝承書上

(1-16)

申上口上之覺

川太郎色々種類多有之候様子ニ相聞候間、申
 伝等之趣有之候は、委細書付を以相達候様ニ
 と被仰付奉得其意候、私共家業ニ付天地元水
 神行事水辺御祈禱之砌、感格之節、時として
 水属ニ付奇事御座候、就中河伯見へ申候事も
 御座候、必竟河伯も水属故と奉存候、右見へ
 申候形四種御座候、川童河と申は長式尺程も御
 座候、川太郎と申は長川童長よりも高毛少御座
 候、又額ニ門を入申候様成形も御座候、是を
 川男と申候、又坊主も御座候、是を香赤と申
 候、右何レも同類故、一統ニは川太郎と申候
 総而肌は榎ニ生候茸之色ニ而頂上ニ皿御座候、
 皿之所は

申上口上之覺

川太郎色々種類多有之候様子ニ相聞候間、申
 伝等之趣有之候は、委細書付を以相達候様ニ
 と被仰付奉得其意候、私共家業ニ付天地元水
 神行事水辺御祈禱之砌、感格之節、時として
 水属ニ付奇事御座候、就中河伯見へ申候事も
 御座候、必竟河伯も水属故と奉存候、右見へ
 申候形四種御座候、川童河と申は長式尺程も御
 座候、川太郎と申は長川童長よりも高毛少御座
 候、又額ニ門を入申候様成形も御座候、是を
 川男と申候、又坊主も御座候、是を香赤と申
 候、右何レも同類故、一統ニは川太郎と申候
 総而肌は榎ニ生候茸之色ニ而頂上ニ皿御座候、
 皿之所は